

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970400566	
法人名	医療法人 健和会	
事業所名	グループホームふれあい天理	
所在地	天理市中之庄町531	
自己評価作成日	平成27年1月18日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カロア	
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号	
訪問調査日	平成27年2月5日	評価結果決定日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業の開始から間もなく10年を迎えますが、開設当時から入居者様も多く年齢が高い方、また近年は若年層の入居者様も増えてきました。ケアの方法も以前に比べて集団的ケアと個別ケアを区別、年齢層にも拝領して、各々の入居者様に適したケアの選択を探りつつ、入居者様が楽しく、笑顔の絶えない暮らしが送れるように可能な限り柔軟な対応を心がけています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な敷地の中に医療法人健和会の運営する病院や福祉施設が多数あり、その中のひとつにグループホームがあります。日常の健康管理から非常災害時においても、病院と施設との連携が図られ、ご利用者やご家族の安心につながっています。法人全体で職員の育成に取り組まれており、採用時からの計画的な研修体制が整備されています。ご利用者お一人お一人に適したケアを常に検討され、実践されています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

ユニット名 ( 1階 )

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私達は医療・介護・がサービス業である事を認識し以下の目標を掲げ、朝礼時に職員で唱和しています。1)入居者様中心の医療・看護・介護 2)地域社会への貢献 3)研究心と向上心を持つ 4)和を尊ぶ	理念は常に確認できる所に掲示し、朝礼やミーティングなどで管理者と職員が理念を共有し確認しあいながら、日々のケアに取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間を通して地域の行事に参加したり、共同で夏祭りを催したり、また、防災訓練にも参加して頂く事もあります。今後は益々のつながりを築くような取り組みも考えています。	健康講座や認知症講座など地域の方に向けた講座を開催しています。神社の花見に出掛けたり、施設の夏祭りに町会の方がおでんの屋台を出して下さるなど、地域とのつながりを大切にされています。	今後は、地域の方と日常的に交流が出来、気軽に訪問して頂けるように職員と取り組んでいきたいと考えておられます。今後の取り組みに期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体法人を通し認知症サポーター養成講座などの開催などありますが、地域的にあまりサービスを使うかたがあまり多くない為か、まだまだ活発ではありません。事業所の取り組みをまだまだ広げていく必要は感じております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業経過報告はさせて頂いていますがまだまだ丸となって取り組んでいる状況ではありません。今年度から区長様も新しく変わられ、活用を検討している状況です。	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催しています。市の担当者、包括支援センターの職員、家族、ご利用者、又区長も参加されながら、現状報告や課題について意見交換がされています。出された意見はケアの向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段より密接に連携をとっており、相談や助言も頂いています。	日頃から市の担当者とメールや電話で連絡を取り合い、サービス事業所会議では施設の運営や実情を伝え一緒に考え、協力体制を築いておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0への手引きを参考に身体拘束に関して意識しています。法人には身体拘束委員会を設置しています。	法人を挙げて、身体拘束ゼロへの取り組みを実践されています。接遇委員会の他の施設職員がチェックに回り、適切なケアがなされているか確認されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを通し学んだ事は出来る限り事業所内に持ち帰れるよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を使用されている方はいませんが、利用を検討されている方がおられ職員会議等の場でディスカッションをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、また、面会時にもお困りの事等ないか伺っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内、法人内、また外部の方を招き第三者委員会を設置し館内に啓示しています。また、説明を行っています。	ご家族が面会時にお話を伺い、電話での連絡時にご要望等を聞き取るなど、何でも言ってもらえるように配慮されています。運営推進会議でのご利用者・ご家族から出された意見・要望等は職員間で話し合われ運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からのコミュニケーションと年に2回の個人面談を設けて意見の交換をしています。	月に2回の職員会議や年に2回の職員との個人面談を実施し、職員の意見やアイデアを聞くようにされています。また日頃からのコミュニケーションにおける気付きを運営に活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能給の導入と福利厚生充実を図り、個々がやりがいを持って働ける環境を築いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、キャリアアップ研修、資格取得サポートを普段より計画的に進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者との食事会や交流の機会がありモチベーションの向上にもつながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様、家族様との面談の機会を大事にしてそれぞれの意向を反映できるように努めている。入居希望者様に対しても全段階からアプローチ、情報の共有を図りつつあります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	意向をしっかりと聞き取れるよう努めています。また十分な説明をさせていただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとの連携で出来る限りご自宅で生活が継続出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	接遇に配慮しながら入居者様を家族の一員の様な思い出接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでは良質なサービスの提供は出来ません。家族様と一緒に前進して行けるようにお声掛けさせて頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り支援させていただきます。場合によってはこちらからのお声掛けもさせていただきます。	馴染みの方の面会や、外出など継続的な交流が出来るように支援されています。お墓参りに職員が付き添うなど、可能な限り対応されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態に配慮しながら個別、集団的ケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際はこちらから今後も相談して頂く事が可能であることを伝えております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の性格や生活歴に配慮してその人らしい暮らしが出来るように努力しています。	日々の関わりの中で、ご本人の思いや希望を把握し、ご家族から伺ったりしながら意向の把握に努めておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り本人様の口からの情報の収集と家族様からの情報の提供を頂けるようにしています。またその方の背景、経緯などもお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の把握、職員間の連携に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の意向を基に目標をもち、達成の為の状態の観察に努めています。	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意向を把握し、職員間で話し合わせ、現状に即した介護計画を作成されています。面会時に、ご家族へ説明され同意を得ておられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体の記録と個人記録をとり、職員一人が3人の入居者様を担当し、状態の変化時、および定期的に再アセスメントを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の状況を勘案して原則以外の支援も検討、実施しているが十分とは言えない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	へき地に事業所があるので十分な社会資源があるかどうかは別として最大限活かせるように検討・実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診の主治医と敷地内にある病院との連携は出来ている。	敷地内にある病院から定期的に往診があります。往診以外にも同病院への通院も行い連携されています。24時間安心して対応できる体制が整っています。利用前からのかかりつけ医へもご家族の協力の下受診できるようになっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、敷地内病院看護師と綿密に連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一法人の病院との連携を密にとっている。また地域包括ケア病棟が新設され相談員の連携会議を設置している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に先の事も考えて頂けるように十分話し合いを行い、また随時その事を家人様と話を重ねている。	入所時から本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、十分話し合いが行われ、随時意思確認をしながらご本人、ご家族にとって良いケアを常に考えて取り組んでいます。職員への研修も実施し適切な対応が出来るようにされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や情報の提供を行い急変に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し訓練も年2回行っている。	年2回行う避難訓練は、夜間想定も実施されています。災害時のマニュアルや緊急連絡網を作成し、敷地内の各施設とも連携を密に取り合い、緊急時には各施設から職員が駆けつけることが出来るようになっています。災害に備えた備品も準備されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生活歴に配慮してその人らしい暮らしが出来るように努力しています。	全職員が利用者の人格の尊重、プライバシーの保持についての研修に参加されています。日々の暮らしの中で、職員の利用者に対する言葉遣いに注意を払い、職員間で話し合いが行われています。援助が必要などときにはさりげなく声をかけておられました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立支援を基本とし本人様が望む暮らしが続けられるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望が実現するように話し合いを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	敷地外の施設への訪問美容でのサービスも受け入れて本人さんの望むサービスを提供させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の出来る事は積極的に行って頂き生活リハビリと考え実施している。	ご利用者の能力に合わせて、テーブル拭きや後片付け、食器洗いなど職員と一緒にされていました。健康に良い玄米や麦ご飯等を使用し、行事の時などお寿司やケーキなど楽しみな献立を考えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や好みなど出来る限り取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを実施し状態の確認をしている。また隣接の歯科受信も随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導と随時のトイレ誘導を状態にあわせて行っている。	プライバシーに配慮し、利用者の様子からのサインを敏感に察知し、パターンを把握して優しく自然な声掛けを行いトイレへ誘導されています。各フロアーには2箇所トイレが設置されており、清潔に気持ちよく使用できるように整備されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・食事・水分と個人に合わせた管理と薬についても主治医と検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日は決まっているが随時本人様の希望に添い入浴・足浴・ゆつくり入って頂けるように配慮している。	週に3回、曜日も決まっていますが、利用者の体調や希望に沿って長湯されたり足浴をされたり、入浴を楽しめるよう配慮されています。職員のペースに合わせるのではなく、利用者のペースに合わせた支援を心がけておられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には昼夜のリズムがつけられるように配慮し、状態によっては臥床を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理を行い随時主治医とも相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体での役割や楽しみ、また状態に合わせてここへのアプローチも行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等の近隣への外出支援と、家人様職員が連携して希望するところへの支援も行っているが、頻繁ではない。	施設の周辺へ散歩は日常的に出掛けています。買い物はスーパーへ車で行き、好みの物を買えるように支援されています。中庭に出て気分転換を図るなど、工夫されています。希望によりお墓参りに一緒に行くなど、個別の対応もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	周辺でお金が使えるところはなく基本的にはこちらで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状態に応じて電話連絡も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく生活して頂けるように努めている。	全体的に清潔感があり、掃除が行き届いています。廊下の奥には木目調のベンチが設置され、気軽にお話できるスペースとなっています。リビングは落ち着いた雰囲気の中でゆったりとソファーに座りテレビを見たり、体操をしたりくつろぐことができます。湿度は常に50%に保たれており、温度管理も適切にされており、居心地よく生活できるように配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行き来できるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時になじみの環境を作って頂けるように家族様と相談している。	居室内は木の特徴を活かしたログハウスの様な雰囲気です。利用者の馴染みのベッドやコタツ、テレビ、写真など思い出の品を持ち込み、その人らしい居場所になるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	他の入居者様との関係性などを考慮しながら自立支援に努めている。		